

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0970201034		
法人名	有限会社 邦史会		
事業所名	グループホーム青の蓮		
所在地	栃木県足利市福居町843 (電話) 0284-72-0584		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年10月2日	評価確定日	平成20年10月20日

【情報提供票より】(平成20年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	10 人	常勤8人(うち兼務3人), 非常勤2人, 常勤換算8.2人	
	10 人	常勤7人(うち兼務2人), 非常勤3人, 常勤換算8.1人	
	10 人	常勤7人(うち兼務3人), 非常勤3人, 常勤換算7.0人	

(2) 建物概要

建物構造	RC造り
	5階建ての1~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	・理美容代, おむつ代, 管理費, レクリエーション費—実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(252,000円)	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	252 円	昼食	420 円
	夕食	294 円	おやつ	84 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年8月20日現在)

利用者人数	27 名	男性	7 名	女性	20 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	7 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団邦史会 うるしばら内科・皮膚科クリニック, 足利赤十字病院, 医療法人杏林会 今井病院, 医療法人恵愛会 青木病院, 医療法人根岸会 足利富士見台病院, うるしばら歯科医院, 医療法人 長崎病院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、市内の医療法人の代表が診療をしている中で必要性を感じ開設された。同じ建物内には有料老人ホーム及びデイサービスセンターが併設され、日中は看護職員も常駐している。また、代表者が市の医師会の理事であることもあって多数の協力医療機関を確保している。医師である代表者も定期的にホーム及び有料老人ホームに往診しており、医療との深い連携のもと、重度化や看取りにも対応している。ユニットは1階~3階に分かれており、それぞれに特徴あるユニットづくりをしながらも協力しながらイベントを行うなどしている。感染症や身体拘束などについて職員会議で定期的に話し合うことで職員の意識づけをするなど質の維持・向上のための仕組みをつくらせている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は、運営推進会議でも報告し、職員でも取り上げるなどして改善に努めている。フロア(ユニット)ごとに発行している「たより」に新任職員紹介を載せたり、玄関に鍵をかけたないケアの実践など具体的な改善を図っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、各フロア(ユニット)ごとにリーダーを中心に話し合っまとめ、最終的に管理者が確認した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、入居者家族、自治会会長、近所の神社の総代(老人会会長)、民生委員、市職員に参加してもらい活動報告をし、それぞれから意見や質問・情報をもらっている。地域の方からの発言からは、ホームを好意的に応援してくれている様子がうかがえ、神輿がホームに回ってくれたり、今後は老人会との交流も検討されるなど地域との交流が徐々に深まっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問の際や電話などで報告し、また各フロアごとに活動報告や予定、近況報告を掲載した「たより」を毎月発行し家族に配布・送付している。新任職員の紹介などもしている。ホーム内に写真を飾ったり、家族に渡したりしている。預かり金は家族の面会時に帳簿を確認してもらい、年度末にコピーと領収書を渡している。重要事項説明書にホーム、市、国保連、県運営適正化委員会の苦情・相談窓口を明記し、玄関にポスターを掲示している。意見箱を置いている。苦情や要望があった時は話し合っ解決に努めている。要望等は職員から管理者に報告し、また必要な情報は申し送りノート等で職員間で共有して運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の文化祭に参加したり、近くの神社のお祭りでは運営推進会議のメンバーでもある神社の総代の配慮でホームに神輿がきてくれたりしている。敷地の隣に公園があり、散歩に出かけた際などに近所の方と交流を持ったりしている。幼稚園や小・中学校との交流もある。地域の方に呼びかけて、ホームの納涼祭に参加してもらったりもしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護・医療・福祉との連携を大切にし、地域の皆様の介護サービス提供に貢献すること等を企業理念とし、「人・義・礼・知・信」を開設以来のホームの理念としている。理念は代表者が作成し、それぞれの言葉は「人=人を敬う、義=正義を全うする、礼=人と挨拶・人の目を見て話す、知=病気の知識を持つ、信=信愛」を表している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各フロアのスタッフルームに掲示されている。また、朝の申し送り時に音読したり、気になった場面で管理者が理念にかなった対応かどうかを確認するなどして理念の共有・実践に努めている。職員には名刺大に印刷した理念を配布しており、名札ケースに入れておくなどして、常に理念を確認できるよう工夫もしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭に参加したり、近くの神社のお祭りでは運営推進会議のメンバーでもある神社の総代の配慮でホームに神輿がきてくれたりしている。敷地の隣に公園があり、散歩に出かけた際に近所の方と交流を持ったりしている。幼稚園や小・中学校との交流もある。地域の方に呼びかけて、ホームの納涼祭に参加してもらったりもしている。	○	自治会に加入しており、今後はゴミ拾いなどの地域活動に参加していきたいとも考えている。また、老人会との交流なども検討されている。運営推進会議を通して地域との関係も深まってきている様子もうかがえる。ホームでは地域との交流を大切にしたいと考えているので、今後も更に地域との交流を深めていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は、運営推進会議でも報告し、職員でも取り上げるなどして改善に努めている。フロア（ユニット）ごとに発行している「たより」に新任職員紹介を載せたり、玄関に鍵をかけないケアの実践など具体的な改善を図っている。今回の自己評価は、各フロアごとにリーダーを中心に話し合っまとめ、最終的に管理者が確認した。		

グループホーム青の蓮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、入居者家族、自治会会長、近所の神社の総代（老人会会長）、民生委員、市職員に参加してもらい活動報告をし、それぞれから意見や質問・情報をもらっている。地域の方からの発言からは、ホームを好意的に応援してくれている様子がうかがえ、神輿がホームに回ってくれたり、今後は老人会との交流も検討されるなど地域との交流が徐々に深まっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のほか、報告や相談ごとなどは管理者が窓口となって行っている。管理者は在宅のケアマネジャーをしていた時の付き合いや、市のゴールドプラン21の会議への参加など市との関係ができています。	○	ホームでは、今後、介護教室の開催なども検討している。また、市との連携を深めたいとも考えている。今後も、ホームを運営する中での課題を共有しながら、地域での認知症ケアを推進するパートナーとして市との共同関係をつくっていくための働きかけをしていくことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問の際や電話などで報告し、また各フロアごとに活動報告や予定、近況報告を掲載した「たより」を毎月発行し家族に配布・送付している。新任職員の紹介などもしている。ホーム内に写真を飾ったり、家族に渡したりしている。預かり金は家族の面会時に帳簿を確認してもらい、年度末にコピーと領収書を渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム、市、国保連、県運営適正化委員会の苦情・相談窓口を明記し、玄関にポスターを掲示している。意見箱を置いている。苦情や要望があった時は話し合って解決に努めている。要望等は職員から管理者に報告し、また必要な情報は申し送りノート等で職員間で共有して運営に反映させている。	○	管理者は、今後更にすべての職員が家族からの要望や意見、苦情等に対応できるようにしていきたいと考えている。施設長・管理者ともに家族からの声を大切に考えているので、今後も家族が気軽に意見や要望、苦情等を表せる仕組みや雰囲気づくりをしていくことに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	フロア間の異動や離職はあるが、職員が変わったときには周りの職員がカバーするなどして入居者への影響を抑える配慮をしている。また、各フロアごとの独自性を活かしつつも行事の際に一緒に行ったり、入居者が別フロアに遊びにいたりするとホーム全体で入居者と職員の関係をつくれるような取り組みもしている。		

グループホーム青の蓮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修などの外部研修は勤務調整も行いながら、交替で参加させたり、参加者を募って参加したりしている。研修受講後は報告書を作成し、参加者を講師に伝達したりして共有を図っている。認知症ケア専門士も複数名いる。また、マナーやターミナルケアなど必要に応じて内部の勉強会を開催し、職員会議時には「意識づけ」の意味も込めて感染症や身体拘束などについて定期的に話し合いをもっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。また、管理者は市内の他ホームと情報交換する関係を築き、他ホームの職員が気軽に当ホームを訪ねられるような雰囲気づくりに努めている。	○	管理者が他ホームと交流の場を持っていることを活かして、運営者とも相談しながら管理者以外の職員も他ホームに訪問したり、近隣のホームと勉強会や交流する機会をもてるような検討をしていくことにも期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入院や他施設入居からの入居の場合は難しいが、本人になるべく事前にホームに来てもらうようにしている。入居時には使用していた家具や身の回り品を持ってきてもらい、また、入居当初は職員の対応も細やかにして環境の変化をなるべく減らすよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	身体的な介護度の高い方もおり、すべての方がということは難しい状況があるが、できることや無理のないように配慮しながら家事などを一緒に行っている。訪問日にも食事の配膳をする方や入居者同士で気遣う場面も見られた。入居者の俳句に職員がイラストを付けて手作りの書籍にしたり、ホームを家として「おかえり」「ただいま」という関係を築いている。		

グループホーム青の蓮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話などの中から本人の希望や意向を把握し、本人がしたいことを生活に取り入れるよう努めている。家族からの情報や意向などのアセスメントも細くくなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望や意向を反映した介護計画の作成に努め、家族にはホームに訪れた際などに必要に応じて医師や看護師などの指示・助言なども取り入れている。サービス担当者会議に本人・家族も参加してもらうケースもある。個人記録や申し送りノートも活用して職員間の情報の共有に努め、会議で職員の意見も踏まえながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画期間を一年とし、モニタリングを6か月に1回実施している。また、月1回のカンファレンスを実施しており、入居者の状態等に変化があったときは随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けており、併設施設の看護師や代表者の医療機関などとも連携しながら重度化・終末期のケアを実施している。また、入居者と一緒に墓参りに出掛けるなど入居者の要望に速やかに応えられるよう努めている。		

グループホーム青の蓮


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	代表者が医師であり市の医師会の理事をしている関係もあって多くの協力医療機関を確保している。月に2回は往診してくれる体制になっており、併施設への往診も含めると頻繁に医師と相談できる体制ができている。かかりつけ医への通院は家族の対応としているが、家族との連携のもと適切な医療が受けられるよう配慮・対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	代表者の設立の思いもあり、希望があればできる限りホームでの生活を支えることとしており、これまでも何人もの方をホームで看取った。家族、医師と話し合いをしたり、その方に合わせた対応の仕方などを「マニュアル」的に別途まとめるなどして、職員全体で対応方針が共有され、実際の支援を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員間で注意し合うなどして、日頃から入居者への言葉のかけ方や対応に気を付けている。職員は明るく、優しい雰囲気を入居者と接していた。個人記録等は1階のスタッフルームに原簿を保管し、2階・3階にコピーを置くなどして適切に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、起床時間などそれぞれのペースにそった生活の支援に努めている。また、入居者の希望で店屋物をとったり、墓参りやコンサート観覧など個別の要望に応えたり、外食・外出を取り入れたりもしている。		

グループホーム青の蓮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	すべての方の参加ということは難しい状況にあるが、配膳や後片付けなど、できる範囲で入居者と職員と一緒にやっている。好きな物や季節のものを取り入れるよう配慮し、時には店屋物をとったり出張の寿司屋を頼んだりもしている。職員も必要に応じて入居者の介助をしながら一緒に同じものを食している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴する方もおり、仲の良い方同士で入浴したりとそれぞれの入居者に合った入浴を支援している。声かけなどをしながら、最低でも週に2回は入ってもらえるよう配慮している。併設施設の特殊浴槽を利用したりもしている。	○	良く眠れるように足浴や牛乳の提供などの配慮もしており、実現はできていないが、開設以来、夜間の入浴を支援したいという気持ちがある。入居者の希望や習慣にそった支援ができないか、今後も検討を重ねていくことにも期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の配膳、片づけ、お盆拭き、洗濯物たたみ等、入居者のできることに配慮しながら一緒に行っている。買物や散歩、外出、合同でのレクリエーションなど楽しみごと・気晴らしの支援をしている。	○	重度化・終末期ケアを実践している中でも、墓参りやコンサート観覧など個別の要望にそった支援にも努めている。また、今後も役割・楽しみごと・気晴らしの支援を充実させていきたいという姿勢が見られたので、その取り組みに期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣に春先には桜の咲きほこる公園があり、日常的に散歩に出掛けたり、職員と一緒に買い物に行ったり、屋上で外気浴をしたりと戸外に出掛ける機会をつくっている。また、菊の花を見に行くなど行事的な外出も行っている。墓参りやコンサート観覧など個別の要望にそった外出の支援にも努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	それぞれのフロアの入口の自動ドアが暗証番号管理になっている。以前は自由な出入りが難しい状況になっていたが、現在は自動ドアを手動にし、開放している。併設施設との共用になっている玄関の自動ドアも普通に出入りできる状態になっている。		

グループホーム青の蓮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、定期的な避難訓練を実施している。防火管理者講習も受講しており、そこで得た知識を活かして暖簾の素材を変えたりもしている。運営推進会議を通して近隣の方に有事の際に協力してもらえるような関係をつくっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好きなものや食べたいものに考慮したメニュー設定にしている。献立はカロリー計算等をしてあらかじめ決めておくスタイルではないが、調理師資格を持った職員を採用しており、各フロアをまわってバランスに配慮した食の提供ができるようにも配慮するようになった。食事・水分の摂取量を確認し、毎月1回は体重測定をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節ごとの飾り物をしたり、入居者の作品などを飾ったりしている。その時の状況に合わせてテーブルやいす、テレビ台などを動かしたりしている。音や光なども適切に配慮されている。また、室内に空気のおどみや気になるにおい等はなかった。入居者の状態を勘案して、リビング部分にベッドを出して横になっている方もいた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の状態によっても居室の様子は異なっているが、基本的に家具等の持ち込みは自由になっている。また、飾り物などをしてそれぞれの居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。